



体外受精・顕微授精に関する 大切なお知らせとお願い

当院では2020年6月に、胚の分割・成長過程を経時的に観察しながら最適な環境で胚の培養ができるVitrolife社のEmbryoScope+（エンブリオスコーププラス）を導入致しました。タイムラプスという機器であり、10分毎の胚の変化を記録することができます。

この培養器の利点としては以下の様な点が挙げられます。

1. これまで観察のために培養器から胚の入ったディッシュを取り出して顕微鏡で観察していました。この作業は胚にとって温度変化や酸素濃度の変化などでストレスとなるものでした。EmbryoScope+では胚の観察をディッシュを取り出さず、培養したままで行う事が出来るためこのような胚に対するストレスを軽減する事ができます。
2. 胚の分割過程で起こる異常分割などの情報が得られ、また内蔵されたAIの働きによって最終的に胚盤胞になった胚の中でどれが移植に適した本当に良い胚であるかをより正確に判断することができるため、妊娠までに要する時間を短縮することが可能となります。
3. 患者さんにより多くの胚発育の情報を提供することができます。

その一方で機器自体がかなり高額であること、保守点検に要する費用が増加すること、培養用のディッシュなどの消耗品がこの機器専用のもので、通常の培養器用のものよりも高額であることなどの問題があります。現行の当院の体外受精の費用ではこれらの新たな培養に要する負担増加を賄う事が難しい状況です。

そこで大変恐縮ですが、令和2年7月1日以降に採卵周期を開始される患者様の培養料を、現在の12万円から1万円上げさせて頂くことと致しました。

誠に申し訳ありませんが、なにとぞ御了解頂きますようお願い申し上げます。

今後当院では全ての胚の培養を、このEmbryoscopeを用いて行います。

スタッフ一同、これまで以上に患者様に寄り添った医療を実践し、治療成績の向上に向けて努力して参る所存です。

院長 井上 善仁